

第5研究課題 第5分科会

「教職員の専門性に関する課題」

研究主題 「教員の指導力を育成するための教頭の役割」

—学校組織力向上へ向けての教科間連携の取組—

仁淀川町立仁淀中学校 藤原博幸

1 研究の概要

現在、授業改善や生徒指導、学級経営、保護者対応等、様々な教育的課題があげられる。その課題を克服していくためには、チーム学校としての取組を推進し、学校の組織力をより強化していくことが重要である。そのためには、職場に学びの雰囲気醸成することや、OJT等を活用し、教員一人ひとりの資質・能力を向上させていくことが不可欠である。

仁淀川町教頭会（小学校3校、中学校2校）では、教員が自分の職場や教員の育成に関してどんなに考えているかを把握するため意識調査を行い、結果を分析・考察し、教頭としてどのような役割を果たしていけばよいかを考え、研究している。

本校は、高知県教育委員会より平成29年度から2年間「中学校教科間連携による授業力向上実践研究事業」、平成31年度（令和元年度）には「中学校組織力向上のための実践研究事業『教科間連携』型推進校」の指定を受け、授業力及び組織力向上に向けての取組を行ってきた。現在も改善を加えながら取組を継続して行っている。

この「教科間連携」を中心とした取組の中で、個々の教員の指導力の向上はもちろんのこと、風通しが良く教員同士が学び合える職場の雰囲気を構築することを目指している。

2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 仁淀川町教頭会の取組	
ア 年間活動計画の作成	○ 日程調整と研究テーマの設定と確認
イ 各校の現状報告と情報交換	○ 情報整理と共有
ウ 教員意識調査の実施	○ 意識調査の作成・結果分析
エ 今後の取組について	○ 課題への具体的な取組の検討
(2) 自校の取組	
ア 教科間連携チームの取組	○ チーム編成に対する助言
	○ チーム間の連絡調整及び、取組の進捗状況の把握
イ 校内研修の充実	○ 参画意識の向上と学び合う雰囲気の構築

3 教頭としての今後の課題

教員意識調査からは、町内各校において、教え合う雰囲気が醸成されつつあるが、自分の学びとしての捉え方は弱く今後の課題と言える。また、指導力育成に関しては「時間的な余裕がない」という意見も多く、働き方改革等、業務の整理等の工夫が必要である。教頭の役割としては、世代間にまたがる意識の違いを把握し、解消に向けた手立てを講じることや「職員室の学級担任」として、目配り、気配り、心配りを意識し、良好な職場の雰囲気づくりをしていくことが必要である。